



## 第54回通常総会及び令和4年度優秀従業員定例表彰 開催

6月8日、第54回通常総会及び令和4年度優秀従業員定例表彰を開催。事業報告及び決算の承認、役員任期満了に伴う改選、常勤の理事の年間報酬総額の決定等の議案について審議が行われ、全議案承認されました。総会終了後の役付理事選定理事会において、村尾 修氏が新会長に選任されました。

理事会終了後、令和4年度優秀従業員定例表彰を挙行。会員企業より推薦された69名（53社）が表彰されました。



第54回通常総会	2
令和4年度（第55期）事業計画大綱	3
村尾 修新会長 就任ご挨拶	4
中本 晃前会長 退任ご挨拶	5
新役員名簿	6
令和4年度優秀従業員定例表彰	7



### 会員企業トップにインタビュー〈29〉株式会社北村鉄工所 ..... 8

#### 創業以来磨き上げた技術で新展開を目指す！



第29回目は、株式会社北村鉄工所（南区）に北村征志代表取締役を訪問。京都市内で創業してから106年。こだわりの溶接技術を用いたモノづくりで顧客ニーズに応える同社の経営についてお話を伺いました。

◀ 北村征志代表取締役

### 京都工業クラブ ..... 9

- 「長期的視野に立った社会課題解決によるビジネス成長とバックキャスト法の活用」
- 「ロシア・ウクライナ戦争と今後の国際社会への影響」
- 「次世代型蓄電池開発の最新動向～開発の現状と課題～」

### 事業活動報告

#### 白鷺クラブ ..... 9

- 定期総会開催
- 京都府・山下副知事との懇談会
- ㈱阪村エンジニアリング 本社工場見学会

#### 業務革新研究会 ..... 10

生産保全（TPM）研究会／品質革新研究会

#### 「～製造業のための～デジタルトランスフォーメーション（DX）始動 支援セミナー」 ..... 10

京都高等技術・経営学院

#### 電子システム研究科・メカトロニクス研究科開講式 ..... 10

### シリーズ コロナ禍における人事労務の課題と取組

#### ～会員企業の人事労務の現状と動向～（第1回） ..... 12

2年以上も続くコロナ禍の中で、企業でも様々な問題が生じる中、皆様の経営の参考にして頂くため、コロナ禍における人事労務の課題と取組に関する会員企業の現状や取組状況について紹介します。

第1回は、本会の総務委員会並びに人事労務問題懇話会のメンバーにご協力いただき本年5月下旬に実施したコロナ禍を原因とする人事労務に係る調査の結果概要を報告します。

#### 叙勲・褒章の栄 ..... 11

#### 新入会員ご紹介 ..... 11

#### ゴルフ同好会（K I G）活動報告 ..... 11

# 第54回通常総会を開催 —新会長に村尾 修氏を選任—

6  
8

6月8日（水）、第54回通常総会および令和4年度優秀従業員定例表彰をリーガロイヤルホテル京都にて開催した。今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインを併用しつつ、総会は本会役員のみ、表彰は表彰受賞者と役員および受賞者企業代表のみが出席する中で開催した。

（表彰された方々は、7頁に掲載）

14時30分から総会を開会。中本晃会長が開会挨拶を行った後、議長に選任され議事に入った。当日の議案は次の通り。

第1号議案：第54期事業報告及び決算の承認の件

〈令和3年4月1日～令和4年3月31日〉

第2号議案：役員任期満了に伴う改選の件

第3号議案：常勤の理事の年間報酬総額決定の件

第1号議案については、まず本永専務理事が事業報告全般及び収支決算について説明。続いて、総務委員会・青山恵則委員長、企画委員会・一居多寿夫委員長、技術・教育委員会・洲崎智之委員長、中堅企業委員会・水主吉彦副委員長、中小企業委員会・瀬川晋弘委員長、環境委員会・高溝広宣委員長、安全衛生委員会・島田清孝委員長、広報委員会・山下文男委員長は欠席のため、専務理事から各委員会で開催した事業説明が行われた。続いて監事4名を代表して澤田守成監事から会計監査の報告がなされ、全員異議なく原案通り満場一致で承認された。

第2号議案については、議長推薦という選任方法について出席者からの承認を受けた後、事務局がその推薦案を読み上げ、全員異議なく承認された。

第3号議案については、専務理事が常勤理事の年間報酬総額決定について説明し、全員異議なく承認された。

これをもって滞りなく全議案の審議を終えた。

続いて報告事項として、第55期事業計画及び収支予算

の報告の件〈令和4年4月1日～令和5年3月31日〉について専務理事が説明を行った。

以上をもって総会議事は終了し、引き続いて理事会を開催し、役付理事の選定を審議した。

まず選任方法について諮ったところ議長一任ということで承認され、前会長の推薦という方法で、役付役員名簿案が配布され、満場の拍手を受けて、承認され、村尾修新会長一期目がスタートした。



挨拶  
中本 晃・京都工業会会長

会 長	村尾 修 (㈱エヌエフコーポレーション)	社長	新任
副 会 長	武田一平 (ニチコン(株))	会長	再任
副 会 長	立石文雄 (オムロン(株))	会長	再任
副 会 長	垣内永次 (㈱SCREENホールディングス)	会長	再任
副 会 長	齋藤成雄 (日新電機(株))	会長	再任
副 会 長	上田輝久 (㈱島津製作所)	会長	新任
副 会 長	錦織 隆 (㈱日進製作所)	会長	再任
副 会 長	片岡宏二 (㈱片岡製作所)	会長	再任
副 会 長	瀬川晋弘 (旭光精工(株))	社長	再任
専務理事	本永治彦		再任
常任理事	32名		
理 事	26名		
監 事	4名		(新役員名簿は6頁に掲載)

理事会終了後、令和4年度優秀従業員定例表彰を開催し、続いて、懇親会を開催。冒頭に中本前会長から退任挨拶を行い、続いて村尾新会長、上田新副会長から就任挨拶を行った。そして祝電披露後、賑やかな内に、片岡副会長の乾杯発声で開宴した。

その後は和やかに歓談し、瀬川副会長の閉会挨拶で盛況裡に懇親会を終えた。



花束贈呈  
中本 晃・前京都工業会会長



挨拶  
村尾 修・新京都工業会会長



挨拶  
上田 輝久・新京都工業会副会長



乾杯  
片岡 宏二・京都工業会副会長



懇親交流会



閉会挨拶  
瀬川 晋弘・京都工業会副会長

# 令和4年度（第55期）事業計画

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【本年度の重要テーマ】

- イノベーションを担う人材の育成
- 労働生産性を高める省力・機械化と働き方改革の推進
- カーボンニュートラルへの対応の加速化

★新規事業 ◆一部新規 ★重点事業

## 1 会の組織強化と会員相互の交流促進

- 1) 総会、理事会、正副会長会議等の開催 ……随時
- 2) 委員会活動の推進 ……随時
- 3) 広報・会員サービス活動の実施 ……随時
- 4) 会員の拡大 ……年間
- 5) 薦の会、白鷺クラブ、ゴルフ同好会(KIG)の運営 ……随時
- 6) 京都工業クラブの開催 ……12回/年
- 7) 新春交歓会の開催 ……定例
- 8) ホームページ掲示板機能による情報交換 ……随時
- 9) オンライン研修等の活用促進 ……随時
- 10) Web登録機能を活用した各種事業への参画促進 ……随時

## 2 経営・業務革新の促進と人材育成

### 経営課題解決シリーズ 1)～2)

- 1) 大会・フォーラム・セミナー・養成講座・視察・見学会等
  - ア.第25回 京都KAIZEN大会の開催 ……1回/年
  - イ.第17回 京都TQMフォーラムの開催 ……1回/年
  - ウ.購買管理特別講演会の開催 ……1回/年
  - エ.経営革新セミナーの実施 ……2回/年
  - オ.ISO9001・ISO14001内部監査員養成講座の開催 ……5～6回/年
  - カ.他府県産業視察の実施 ……1回/年
  - キ.生産革新工場見学会の開催 ……4回/年
  - ク.2022年版ものづくり白書説明会 ……1回/年
  - ケ.課題対応型セミナーの開催
    - ★・産学連携によるイノベーション推進セミナー…1回/年
    - ★・脱炭素(カーボンニュートラル)に向けた取組支援セミナー ……1回/年
    - ◆・ロボット導入・運用支援 見学会 ……1回/年
    - ★・製造業のためのデジタル・トランスフォーメーション(DX) 始動 支援セミナー ……2回/年
    - ★・デジタル・トランスフォーメーション(DX)講座…4回/年
    - ・サイバーセキュリティ対策セミナー…1回/年
    - ★・ものづくりにおけるデータ活用セミナー…1回/年
    - ★・マテリアルズ・インフォマティクス(素材開発の効率化技術) セミナー ……1回/年
    - ・モノづくりモチベーションアップセミナー…1回/年
    - ・業務改善のためのアイデア発想講座…4回/年
- 2) 経営管理懇話会の開催 (管理者対象)
  - ①経営企画戦略会議21 ……7回/年
  - ②R&D問題懇話会 ……6回/年
  - ③購買・資材問題懇話会 ……6回/年
  - ④生産問題懇話会 ……6回/年
  - ⑤品質保証懇話会 ……6回/年
  - ⑥人事労務問題懇話会 ……6回/年
  - ⑦労働安全衛生研究懇話会 ……7回/年
  - ◆⑧女性活躍推進懇話会 ……4回/年
  - ⑨経理問題懇話会 ……6回/年
  - ⑩監査部門懇話会 ……6回/年

### リスクシリーズ 3)～5)

- 3) 業務革新研究会の開催(若手社員～中堅実務者対象)
  - ①開発設計革新(VE)研究会 ……9回/年
  - ②流れづくり(VSM)研究会 ……9回/年
  - ③購買調達革新研究会 ……9回/年
  - ④生産管理(TOC)研究会 ……9回/年
  - ⑤品質革新研究会 ……9回/年
  - ⑥産業工学(IE)研究会 ……9回/年
  - ⑦生産保全(TPM)研究会 ……9回/年

- ⑧生産現場リーダー力強化研究会 ……9回/年
- ⑨良いモノづくりをする女性のための研究会 ……4回/年
- 4) 特定分野研究会等の開催(若手～経営幹部対象)
  - ①「モノづくりベーシック講座」(若手社員対象) ……4回/年
  - ②知的財産権研究会 ……9回/年
  - ③テクノロジー&マネジメント研究会 ……14回/年
  - ④情報通信研究会 ……7回/年
  - ⑤IoT研究会 ……5回/年
  - ⑥AI研究会 ……5回/年
- 5) 京都高等技術・経営学院の運営(若手技術者対象)
  - ア.研究科 ……6～2月 1回/週
    - ・電子システム研究科
    - ・メカトロニクス研究科
 } 各研究科延べ70回
  - イ.本科

### <技術課程>

- ・機械設計コース ……17回/年
- ・機械製図コース ……5回×2クール/年
- ・機械加工技術コース ……4回/年
- ・特定分野コース
  - ①材料技術講座 ……4回/年
  - ★②ライフサイエンス講座 ……4回/年
  - ★③ケミカル講座 ……4回/年
  - ★④AIソフト人材育成講座 ……4回/年

### <管理課程>

- ・生産管理コース ……5回/年
- ・コストダウンコース ……5回/年
- ・FMEA・FTAコース ……5回/年

## 3 オープンイノベーション推進による新産業・新事業創出

- ★1) モノづくりイノベーションネットワークの実用化促進 ……随時
- 2) 「モノづくりフォーラム2023」の開催 ……1回/年
- ★3) 産学連携によるイノベーション推進セミナー(再掲) ……1回/年
- ★4) 京都知恵産業創造の森との連携 ……年間

## 4 経営グローバル化の推進

- 1) 海外産業視察団の派遣 ……1回/年
- 2) 海外ビジネスセミナーの共同開催 ……1回/年
- 3) ジェトロ京都貿易投資情報センターとの連携 ……随時
- 4) 海外経済団体との交流 ……随時

## 5 中堅・中小企業の振興

- ◆1) 中小企業技術幹部交流会の開催 ……5回/年
- 2) 中小企業見学会の開催 ……4回/年
- 3) 生産革新工場見学会の開催(再掲) ……4回/年

## 6 地球環境の保全と環境経営の推進

- ★1) 京都環境管理研究会の開催 ……7回/年
- ★2) 脱炭素(カーボンニュートラル)に向けた取組支援セミナー(再掲) ……1回/年
- 3) 環境マネジメントシステム(ISO14001及びKES)の推進 ……年間
- ◆4) 環境関連課題の動向調査と研究 ……年間
- 5) 環境関連3団体、その他外部団体との協働 ……年間
- 6) 第46回 関西環境管理者交流会 ……1回/年

## 7 労働安全衛生の推進

- ★1) 安全衛生関連セミナーの開催 ……1回/年
- 2) 労働安全衛生研究懇話会の開催(再掲) ……7回/年

## 8 地域産業の活性化

- 1) 国・京都府・京都市等関係行政機関との連携 ……随時
- 2) 京都経済団体協議会との協調 ……随時
- 3) 府内・外関係経済団体との協調 ……随時
- 4) 京都知恵産業創造の森との連携(再掲) ……随時
- 5) 環境関連3団体との協調(再掲) ……随時
- 6) 青少年と科学の会への支援及び京のエジソンプログラムの推進 ……随時
- 7) 北部地域産業界との連携 ……随時
- 8) 要望活動 ……随時

## 9 京都工業会館跡地の有効活用

## 会長就任ご挨拶



去る6月8日の通常総会及び理事会におきまして皆様からご推挙いただき、この度、京都工業会の会長に就任いたしました。

伝統ある京都工業会の会長職は、誠に身に余る光栄に存じますとともに、その責任の重さを痛感しております。

8名の副会長をはじめ役員各位、そして会員の皆さま方にご支援いただきながら、ご期待に応えられますよう誠心誠意努力してまいる所存ですので、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、我々を取り巻く経済環境は、コロナ感染拡大によりサプライチェーンの途中がストップしたことで、最終的な販売が減少する状態となる混乱が起きています。加えて、ウィズコロナ社会の中、行動規制緩和により需要が急増しましたが、原材料や農産物などの増産との時間的ギャップが生じ、供給不足が発生、資源価格等の価格上昇をもたらしています。

さらに、ロシア・ウクライナ紛争により供給不足懸念に拍車がかかり、悪い物価上昇と言われる、インフレが一気に進んでいます。その結果、世界の主要国の1～3月期のGDP成長率は大きく低下し、我が国では2四半期ぶりにマイナス成長となりました。4～6月期以降の見通しも下方修正が相次ぎ、各国では景気悪化を防ぐべく金利の引き上げを急いでおり、経済環境は一層不透明なものになっています。

このような厳しい環境にありますが、いつの時代でも逆境を乗り越え新たな道を切り開いてきたのは知恵と努力で新しい技術を生み出し、仲間とともにそれを活かしてきた人々の力によるものです。

我々モノづくり企業の集まりである京都工業会といたしましては、基本理念にありますように、『グローバル競争を勝ち抜く技術の向上』と『人材の育成』を命題として、ブレることなく運営してまいりたいと思います。

ご承知のように京都のモノづくり企業は、長年に亘り培われてきた伝統産業の技術を礎として、時代の変化とともに革新を重ね進化し続けて参りましたが、その変化に対応したイノベーション（新たな結合）を生み出してこれたのは、それぞれの立場にあるリーダー達の意識と行動によるものです。

少子高齢化や労働生産性の向上、女性活躍をはじめとする働き方改革やDX推進強化、新エネルギー開発等も視野に入れたカーボンニュートラルの取組、グリーントランスフォーメーション（GX）の実現など、様々な課題が立ちはだかり、解決に向けた挑戦が求められています。

このように、将来の予測が極めて困難な国際社会の中で企業が成長し続けるためには、これまでのビジネスモデルに依存しコストを最小限に抑え 利益を追求していくだけの経営では、企業は競争力を維持できません。

とりわけモノづくり企業において、刻々と変化する市場ニーズの変化や社会要請に具体的なモノづくりを通じて応えていくには、イノベーションすなわち、これまでにないサービスや、今はまだ存在していない技術・製品などを生み出す力がとても重要であり、京都工業会の人材育成教育や産学公連携の充実強化を通じて、会員企業の皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

今後とも会員の皆さま方の一層のご協力をお願い申し上げますとともに、関係の皆様のごさらなるご支援ご指導をお願い申し上げます。

## 退任挨拶



この度、去る6月8日に開催されました第54回通常総会をもって、京都工業会の会長を退任しました。2期4年に亘り、伝統ある京都工業会の会長を務めることができ、たいへん光栄に思っています。

振り返ってみますと、二期目となる2年間は、新型コロナウイルスの感染拡大で、様々な事業が影響を受け、海外産業視察は2年間取り止めざるを得なくなりましたが、何とか国内の産業視察は安心安全を確保して、つまり、感染対策を万全にすることで実施できないものかと考え、副会長各位と事務局の熱意、努力のおかげで、この2年間で年一回ずつ行う（富山県と福岡県）ことができました。そして、他の事業もオンラインを併用するなどして、ほぼ実施することができました。これらの事業遂行を含め、会長としての責務をどうにか無事に終えることができましたのも、役員、会員、事務局の皆様、京都府、京都市をはじめとする関係の皆様方の温かいご支援、ご協力の賜物と心より御礼申し上げます。

一方で、私たち企業にとっては、二年に亘るコロナ禍に加えて、世界的な半導体不足や、原材料、部品などの入手難や価格の高騰、ロシアによるウクライナ侵攻により引き起こされた、エネルギーや食糧危機の問題、米中対立の激化や中国の軍事大国化によるリスク、更には、大規模災害につながる気候変動問題に対処するための省エネ・新エネルギー開発などのカーボンニュートラルへの取り組みなど、地球規模の社会課題への対応といった難しい舵取りを迫られる状況が続いています。そのような環境の下でも我々企業が成長していくためには、『チャレンジを続けること』そして『イノベーションの創出』と『人材育成教育』がキーであることは、これまでに何度も困難を乗り越えてきた京都の歴史が示すところです。

京都工業会は創立60周年を機に、「21世紀を担うモノづくり集団～京都からモノづくりイノベーション」の基本理念のもと、未来に向けた変革のリーダーと京都の特徴である独創的な技術の創出につながる技術力の向上を担うことができる人材の育成、地球規模の社会的課題の解決に向けての対応、更には、益々激しさを増しているグローバル競争を勝ち抜くことができる人材の育成といった“人材の育成事業”に重点をおいた各種研究会、各種革新セミナー、京都高等技術・経営学院などの事業を行って、高い評価をいただいています。これからも、この人材育成事業をプラットフォームに、先に述べました『イノベーションの創出』と『人材育成教育』というこれまでも重点をおいて取り組んできた事業をより内容の充実を図って展開されることを願っています。

2021年にはイノベーション創出を支援するための「モノづくりイノベーションネットワーク」の構築と「オープンイノベーション」の仕組みづくりに注力してきましたが、2022年は、この仕組みから新たな芽がでることを期待しています。また高度人材育成のための教育として、AI、ライフサイエンス、新素材など新たな分野の研修を充実させてきましたが、今年（2022年）は、急速に進展する高度技術や産業構造の変化により合致した教育訓練（リスキリング）の機会を多くして、さらなる高度人材育成につながるようになることを期待しています。

京都工業会も、多種多様な経済団体・組織が一堂に会し、これまでになかった「多様な人材・情報が集まる交流と融合」の場ができると期待された“京都経済センター”に居を構えて4年目を迎えています。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、まだ収束したわけではありませんが、村尾新会長の陣頭指揮のもと、京都工業会が、この京都経済センターを舞台に、新たな価値を創り上げて、一層、発展されていかれることを祈念しています。

# 令和4年度 公益社団法人 京都工業会 役付役員名簿

※印=新任

(令和4年6月8日、敬称略)

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属		
会長	※ 村尾 修	(株)ジーエス・ユアサコーポレーション	社長	常任理事	本多文雄	大阪ガス(株)	理事 京都・滋賀地区統括支配人
副会長	武田一平	ニチコン(株)	会長		前川重信	日本新薬(株)	会長
	立石文雄	オムロン(株)	会長		増山晃章	星和電機(株)	社長
	垣内永次	(株)SCREENホールディングス	会長	※	御子神 隆	三菱ロジスネクスト	会長
	齋藤成雄	日新電機(株)	会長		村田大介	村田機械(株)	社長
※	上田輝久	(株)島津製作所	会長		村田恒夫	(株)村田製作所	会長
	錦織 隆	(株)日進製作所	会長	※	山岡靖尚	(株)山岡製作所	社長
	片岡宏二	(株)片岡製作所	会長		山口悟郎	京セラ(株)	会長
	瀬川晋弘	旭光精工(株)	社長		山口 進	(株)川島織物セルコン	会長
顧問	田中千秋	元日本電池(株)	京都工業会元会長	理事	安藤源行	(協)日新電機協力会	理事長
	服部重彦	(株)島津製作所	京都工業会元会長		井上哲次	京都精工電機(株)	代表取締役
	依田 誠	(株)ジーエス・ユアサコーポレーション	京都工業会元会長		今岡俊成	朝日レントゲン工業(株)	社長
※	中本 晃	(株)島津製作所/京都工業会	前会長		上野山寛次	上野山機工(株)	社長
参与	小畑英明	日新電機(株)	特別顧問		大蔵浩二	(株)トミナガ	社長
	有馬 透	(公社)京都工業会	参与	※	大谷忠雄	サンコール(株)	社長
専務理事	本永治彦	(公社)京都工業会	専務理事	※	尾崎至弘	丹後機械工業(協)	理事長
常任理事	足立正之	(株)堀場製作所	社長		金井 進	(公社)京都工業会	理事 事務局長
※	今西哲雄	太平工業(株)	社長		川口剛史	(株)日本ジョイント	社長
	尾池 均	尾池工業(株)	社長		小林剛一	日本電気化学(株)	社長
	大倉治彦	月桂冠(株)	社長		阪口雄次	(協)京都府金属プレス工業会	理事長
	大下 実	(株)イシダ	常務取締役		里村和樹	宇治電器工業(株)	社長
	岡田博和	TOWA(株)	社長	※	志賀哲也	日本たばこ産業(株)関西工場	工場長
	岡本光三	(株)大日本科研	会長		島田理史	(株)菊水製作所	社長
	小倉 勇	(株)たけびし	社長		須河進一	須河車体(株)	社長
	榎藤達郎	(株)カシフジ	社長		洲崎章弘	京都府鋳物工業(協)	代表理事
※	木村 睦	宝ホールディングス(株)	社長		鈴木三朗	(株)最上インクス	相談役
	小原 勉	(株)工進	会長		鈴木順也	NISSHA(株)	社長兼CEO
	材木正己	日東精工(株)	社長		津田雅彦	関西電力送配電(株)	執行役員 京都支社長
※	坂本隆司	第一工業製薬(株)	会長		中野正宏	大日本印刷(株)Lifeデザイン事業部	第2BIセンター長
※	佐口敏康	グンゼ(株)	社長		根來紀行	(株)松風	社長
	神徳浩久	三菱自動車工業(株)京都製作所	所長		橋本 進	(株)京都製作所	会長兼CEO
	砂崎達哉	(株)砂崎製作所	社長		藤永清恵	(株)森川製作所	社長
	園田修三	福田金属箔粉工業(株)	社長		水主吉彦	太陽機械工業(株)	社長
	竹ノ内壯太郎	三和研磨工業(株)	社長		山中泰宏	旭金属工業(株)	社長
	橋 昭文	(株)モリタ製作所	社長		吉田典生	三和化工(株)	社長
	田中 滋	京都機械工具(株)	社長	監事	佐藤博文	エンゼル工業(株)	会長
	塚本能交	(株)ワコールホールディングス	会長		澤田守成	(株)ボックス・サワダ	会長
	津田幸平	津田電線(株)	社長		中野秀紀	明光精器(株)	社長
	堀 英二郎	(株)ホリゾン	社長		牧野 稔	サンエー電機(株)	社長

# 令和4年度 会員企業優秀従業員定例表彰

6/8

6月8日(水) 通常総会終了後、16時30分から令和4年度優秀従業員定例表彰を挙げる。

まず、中本 晃会長が式辞を述べ、その後、受賞者全員の名前を読み上げ、受賞者69氏(53社)を代表して、佐々木 健氏(メテック株)へ中本会長から表彰状と記念品が授与された。

続いて、来賓の京都府商工労働観光部長 上林秀行氏、京都市産業・文化融合戦略監 兼 産業観光局長 石田洋也氏より祝辞をいただいた後、受賞者代表として木下辰男氏(菅原精機株)が謝辞を述べた。その後、本会正副会長、来賓各位とともに記念撮影を行い、同表彰式を終えた。

～ 69氏を表彰～



## 〈受賞者名〉 (以下敬称略)

朝日レントゲン工業(株)	松浦 眞弓	株式会社・ユアサコーポレーション	森本 彰	ニチコン(株)	長谷川 誠一
(株) イシダ	辰巳 惣	島津システムソリューションズ(株)	笹倉 靖史	(株) 日進製作所	仲江 清一
(株) イセト	山中 克重	(株) 島津製作所	奥山 康之	(株) 日進製作所	宮本 俊之
(株) イセト	向山 和彦	(株) 島津製作所	西垣 昭市	日新電機(株)	沢田 昭吾
一志(株)	中井 清之	(株) 島津テクノリサーチ	井上 毅	日新電機(株)	伊達 昌和
尾池工業(株)	檜木 利雄	島津トラステック(株)	中塚 聖和	日東精工(株)	上野 美光
大阪ガス(株)	巽 隆至	島津プレジジョンテクノロジー(株)	四方 直樹	福田金属箔粉工業(株)	後田 綾子
(株) カシフジ	吉武 勇人	株式会社SCREENホールディングス	白本 宏昭	福田金属箔粉工業(株)	坂本 慎二
(株) 片岡製作所	前田 悟	株式会社SCREENホールディングス	内田 直樹	(株) 平安製作所	葛城 勇人
(株) 菊水製作所	菅原 幹雄	須河 車体(株)	並川 匡昭	(株) 堀場製作所	万木 利和
京都機械工具(株)	平方 祐二	菅原 精機(株)	木下 辰男	三菱自動車工業(株)京都製作所	伴 喜代和
京都精工電機(株)	松野 力也	星和電機(株)	谷口 浩二	三菱自動車工業(株)京都製作所	三好 克志
(株) クリスタル光学	美浪 晴行	星和電機(株)	水本 和治	三菱ロジスネクスト(株)	古倉 一正
クロイ電機(株)	内野 直樹	(株) タイヨーアクリス	大岩 敦	三菱ロジスネクスト(株)	才村 昭夫
クロイ電機(株)	大脇 圭子	(株) たけびし	山口 正雄	(株) 宮木電機製作所	木内 義隆
月桂冠(株)	増田 光正	太陽機械工業(株)	木村 信昭	村田機械(株)	平岡 徹
(株) 工進	原水 弘美	(株) 大日本科研	佐々木 靖彦	村田機械(株)	吉田 恭規
サンコー(株)	奥村 健	トクデン(株)	大西 俊成	メテック(株)	佐々木 健
(株) 最上インクス	池上 剛	(株) トミナガ	堀部 正樹	明光精器(株)	大坪 孝史
(株) 佐藤製作所	中西 千佳子	TOWA(株)	川口 智樹	(株) モリタ製作所	田中 喜代美
三和化工(株)	上田 純司	TOWA(株)	松井 諭	(株) モリタ製作所	中村 義人
三和研磨工業(株)	森田 晃	(株) 藤堂製作所	馬場 進一	(株) ユーシン精機	大槻 正幸
株式会社・ユアサコーポレーション	丹野 義明	ニチコン(株)	沓澤 史郎	(株) ユーシン精機	岡本 泰徳

## ■会員企業トップにインタビュー 〈29〉

# 創業以来磨き上げた技術で新展開を目指す！

～老舗モノづくり企業にみる不易流行～

### 株式会社北村鉄工所プロフィール

創業：1916年  
資本金：2,200万円  
社員：44人  
住所：京都市南区久世中久世町4-33  
業種：各種産業用機械設計・製作、業務用厨房機器、食品用検査装置の製造・販売

## 株式会社北村鉄工所

代表取締役社長 北村 征志氏

京都市内で創業してから106年。こだわりの溶接技術を用いたモノづくりで顧客ニーズに応える株式会社北村鉄工所の北村征志社長にお話を伺いました。

### 一創業から今日までの変遷を教えてください

創業当初は調理器具を中心に鍛冶屋に近いことをやっていたと聞いています。昭和31年に島津製作所さんの協力工場となり真空関連機器の製造を開始しました。その後、日本電池（現ジーエス・ユアサコーポレーション）さんとの取引も大きくなり、現在では多くの企業と取引をさせていただいています。

振り返ると、取引先が増加した時期には、ITバブル崩壊による株価暴落やリーマンショックをはじめ何らかの大きな出来事がありました。私が入社した20数年前には、取引先の業績に左右されず当社の業績を安定・成長させるには取引先の増加による売上拡大が必要と考え、多くの展示会や商談会に参加しました。これがきっかけで新しい取引先の開拓が進み、売上を伸ばすことが出来ました。私の入社時の年商は約4億円でしたが現在は約7億円となり、製造受託と自社製品の売上比は8：2で製造受託が多いです。

### 一貴社はどのような製品を作っておられますか

私が入社した頃から自社製品を手掛けるようになりました。この大きなきっかけは、島津製作所さんと共同開発した食品パッケージに関する真空技術を使った検査機で、同社から顧客ニーズ等の情報を共有し、気密溶接を得意とする当社が製造したものです。島津製作所さんが販売されたことで大手メーカーにも採用されました。その後、島津製作所さんからの相談を受けて約6年前からは当社単独で製造販売をしています。

真空パックに空気が入っていると食品にカビが生えることがあり、一つでもそうなると全品が返品になったりするため、食品メーカーは品質管理に特に神経を使っておられます。そこで当社検査機の需要が高まっています。また、当社製品は大手スーパーに導入してもらっていることで信頼度が高く、他のスーパーからも引き合いがあります。他にも、お弁当屋さん向けのオーダーメイドの炊飯器や洗米機等が伸びています。

### 一コロナ禍の影響はありますか

影響は少なかったと思いますが、半導体などの資材を予定通り確保できず困った面があり、いまだにその影響は残っています。去年から造り掛けの装置の部品が揃わず、倉庫に積んでいる未完成品もあります。（資材を京

都企業間で融通し合う仕組み「京都ものづくり部品相互融通プラットフォーム」[窓口：京都産業21]をご案内しました)

### 一コロナ禍だからこそ取り組んでいることはありますか

DXを考える時間がとれるので、デジタル化を積極的に進めています。例えば、社員が頻繁に行う必要のあった工程管理の一部をデジタル化して人が関わる部分を削減しました。これにより他のことに使える時間が出来たため効率が上がりました。DXの推進はコロナ禍前から考えていたことですが、コロナ禍の中で随分進みました。

### 一ユニークなホームページをどのように作られましたか

当社は現在、「鉄工所」という社名からは想像し難い事業を行っています。そこで社名変更も何度か考えましたが、社名と事業が違うことは面白いし、また100年続けてきた看板を今さら変えることは面白くないと思い、敢えてそのままにしています。そこで、当社の事業内容をHPで伝えようと考え、昨秋にホームページ（HP）リニューアルを決めました。営業責任者とHP製作会社のディレクター、私も入って、「折角作るのだから他にないようなシンプルで直感的、遊び心のある柔らかいページを作りたい」ということで検討を重ね、今年5月にやっと完成しました。

当社がどんなものを作っているのか学生に知ってもらえる、また地元とどういにかかわりがあるのかを近隣の方に知ってもらえるページを目指しました。BtoBではHPをみただけで引き合いを受けることはありませんが、HPからの問合せが確実に増えており、それがきっかけで取引につながっているところも徐々に出てきています。



### 一今後の抱負をお聞かせください

当社では、食品・医療・防災品が柱になる事業だと考えています。中でも人が生きていく上で欠かせない食品分野に関して、まだ世の中にない自社独自の技術や製品を手掛けていきたいと考えています。取引先の食品メーカーから様々な課題をいただいていますので、これらに対して極めていきたいと考えています。

第660回 京都工業クラブ

4/28

「長期的視野に立った社会課題解決による  
ビジネス成長とバックキャスト法の活用」

慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授  
岡田 正大氏

地球環境・社会環境・事業環境等の変化が加速する中、長期視点に立って未来のあるべき姿（未来像）を描き、そこを起点にその実現方法を考える「バックキャスト法」手法が注目を集めている。講演では、①政治 ②経済 ③環境 ④社会 ⑤技術 ⑥経営の6分野の2022年以降のビジネス環境の解説とそのトレンドを詳らかにされた。その上で、これからの経営には自社としての確固たる企業観を持ち、超長期の視点で世界・社会・自社を俯瞰することの必要性、そのための長期視点に立った戦略構築におけるバックキャスト法の活用について説明された。



第661回 京都工業クラブ

5/16

「ロシア・ウクライナ戦争と  
今後の国際社会への影響」

立命館大学 政策科学部 教授  
上久保 誠人氏

世界中が動向を注視し、経済面でも影響が広がりつつあるロシア・ウクライナ戦争。講演では背景にある「大国ロシアの幻想」について解説され、続いてウクライナが徹底抗戦できた理由として、同国での自由民主主義の浸透と米英の情報戦における支援が、ロシアを泥沼の戦争に引き込んだ、と解説された。今後、日本はロシアの力による現状変更を絶対に容認しないという立場を堅持し、欧米と協調してロシアに対する経済制裁を行う一方、欧米・日本の資源の権益を奪取しようとする中国の動きを防がなければならない、安全保障上、難しい舵取りを迫られる、と述べられた。



第662回 京都工業クラブ

6/17

「次世代型蓄電池開発の最新動向  
～開発の現状と課題～」

京都大学大学院 工学研究科 教授  
安部 武志氏

脱炭素社会実現に向けた動きが世界的に活発化する中、次世代型電池の開発が国を挙げて進められている。電池の成り立ちから一次電池（使い捨て）と二次電池（充電できる蓄電池）の違い、鉛・ニッケル・リチウム等二次電池の種類や、近年活用が広がるリチウムイオン電池の仕組みとその応用などが紹介された。氏がプロジェクトリーダーを務めるRISING2・3プロジェクトで開発を進めている革新型蓄電池をはじめとする新しい電池開発についても紹介され、蓄電池開発とその上手な利用により持続可能社会に貢献したい、と締め括られた。



白鷺クラブ 活動報告

4月 令和4年度定期総会（鳶の会と合同開催）

4月7日（木）夕刻に、白鷺クラブの令和4年度・定期総会が「鳶の会」と合同で京都工業会にてオンラインも併用で開催され、31名が出席した。

冒頭、川田代表幹事が開会挨拶を行った後、令和3年度の活動報告、令和4年度の役員を選任、そして本年度の事業計画について活発な討議を行い、全ての案件について満場一致で承認された。今年度の国内視察は、11月10日・11日に鹿児島県を訪問。また、本会首脳との懇談や滋賀県の若手経営者で構成されている「あさって塾」との相互の交流訪問などが計画されている。

<令和4年度役員>



島田理史氏  
(菊水製作所・社長)



岡本浩志氏  
(大日本科研・社長)

幹事：川田 潤氏（京都加工・社長）、山本 光氏（平安・専務取締役）  
中本 宏樹氏（福知山重工業・社長）

5月例会 京都府副知事 山下晃正氏との懇談会

5月16日（月）第534回の白鷺クラブ例会は、京都府副知事の山下晃正氏を講師に迎え、市内エースホテルにて開催。「京都府のオープンイノベーションの推進について」と題した講演をいただいた。特にコロナ禍でオンラインを活用したビジネスへの劇的な変化と最近のスタートアップの変化、大手企業といえども、様々な企業と連携して取り組むことが求められていることを、普段の活動の中で強く感じていると力説された。



(山下京都府副知事)

食事の合間にも、参加したメンバー各社の課題等に関する発言に対し、一つずつ丁寧に回答いただく形で進行し、予定していた2時間を超える大変貴重で充実した懇談会、意見交換会となった。

6月例会 (株)阪村エンジニアリング 本社工場見学会

6月9日（木）白鷺クラブメンバー企業・株式会社阪村エンジニアリングを訪問し松井社長より同社の取組について説明を伺った後、施設内の見学を行った。



(社員休憩室にて)

同社は、金型の設計、製造、販売会社として誕生し、鍛造技術を自社製品である超硬ピンの設計から製造にまで応用、より高性能・高寿命化を図っている。経営理念を「PIONEER OF THE NEW VALUE」とし、常に新しい価値の創造に挑戦し、最先端の工作機械による24時間無人運転と熟練の技術者による加工で、短期間で高品質な製品を製造する体制を整え、新しい価値の製品、サービスを顧客へ届けている。

工場従業員の平均年齢が28歳、女性比率30%以上で福利厚生の充実と生産性向上を実現させている。メンバー企業の取組から経営について学ぶ良い機会となった。

## ◆ 業務革新研究会 活動紹介 ◆

本会の基幹事業の1つである業務革新研究会（8研究会）は、5月10日（火）から研究会ごとに順次活動を開始した。

各研究会とも、初回は午前から開催し、まずは研究会活動の説明を行ない、その後、自己紹介、研究会活動の年度方針（スローガン）の検討、前期カリキュラム（5月～9月）の検討を行った。午後からは、アドバイザーからの基調講演やそれに基づく活発な討議等が行われた。

以下、主な活動概要を紹介する。

### 【生産保全（TPM）研究会】

初回例会では、アドバイザー高橋文彦氏（元京都機械工具株式会社 常務取締役執行役員）から「TPMの基本的な考え方」と題して基調講演をしていただいた。

### 【講演内容：抜粋】（5月27日開催）

#### ◇生産体制の土台

- ⑤誰でも出来る化 DDK（だれでもできるか）
- ④不良ない化 TQC 直行率、自工程完結ほか
- ③故障ない化 TPM 可動率（性能稼働率）ほか
- ②怪我ない化 安全 目指せ「総理大臣賞」
- ①職場よい化 3S 3S現場作り

### 【品質革新研究会】

6月例会では、アドバイザー高山直彦氏（元株式会社島津製作所 分析計測事業部 副参事）からFMEA（Failure Mode and Effect Analysis）についての演習と講義を受けた。

### 【討議内容：抜粋】（6月28日開催）

#### ◇FMEAプロセスの概要（13ステップ）

- ①部品を記述
  - ②部品ごとの機能を記述
  - ③機能ごとの故障モードを記述
  - ④予想される故障モード毎に影響を記述
  - ⑤各影響の重篤度ランクを割り当てる
  - ⑥真因を同定する
  - ⑦故障モード毎に発生頻度ランクを割り当てる
  - ⑧デザインの制御環境を同定する
  - ⑨故障モード毎に検出ランクを割り当てる
  - ⑩リスク優先評価値を各故障モードに対して計算
  - ⑪RPNに関してソートをかけ、高いRPNを是正処置の対象とする
  - ⑫故障モードから故障リスクを除去または軽減の為、是正処置を計画、実施
  - ⑬RPNを再計算
- ※必要に応じてStep⑪～⑬を繰り返す

## ～製造業のための～

## デジタルトランスフォーメーション(DX)始動 支援セミナー 開催報告

開催日・出席者：令和4年6月22日（水）13名  
6月29日（水）8名

会場：京都工業会（オンライン併用）

講師：杉浦 司氏

杉浦システムコンサルティング・インク  
MBA・技術士（経営工学・情報工学）  
情報処理安全確保支援士

中小企業の製造業におけるDX導入について考え方と具体的な取組について解説した。

### <背景・現状と課題>

コロナ禍を通じて加速されたデジタル化の波は、大企業はもとより中小企業にも及んでおり、モノづくりにおいても大きな変化が現れ始めている。その変化に対応していくために、急速な業務の効率化が求められている。しかし、現状は約8割の企業が老朽システムを抱えており、IT関連費用の80%が現行システムの維持管理に使われ、戦略的なIT投資に資金・人材を振り向けられていないと言われている。この老朽化したシステムは、DX推進の足かせとなっている。

DXとは、単なるデジタル化やITではなく、ソーシャル技術やクラウドなどを利用し、新しい製品やサービス、ビジネスモデルを変化・創出していくことである。

### <3段階ある製造業のDXの進め方>

#### ①工場のデジタイゼーション（Digitization）

紙資料からの脱却はDXへの大きな一歩。アナログ情報のままでは生産性が上がらない。議論の余地なく、すぐに実施すべき。すでにデジタル化したデータも見直す。

#### ②工場のデジタルライゼーション（Digitalization）

業務の標準化で部署間連携、企業間連携が可能なITへ。業務を標準化してパッケージソフトやクラウドサービスをそのまま利用できるようにすることで、短期間、低コストでフレキシブルに。ITを利用して、部署間、企業間連携を容易にする。

#### ③工場のデジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）

デジタル技術を活用して、部署やサプライチェーンの壁を乗り越えて、製造プロセスから出荷後のデータまで一元管理し、現場にフィードバックを行い、生産性と安全性を高めながら、製造コストを抑え、クライアントにも満足してもらえるような「モノづくり」に転換する。

## 京都高等技術・経営学院

### 【第42回電子システム研究科】

### 【第39回メカトロニクス研究科】 開講

6月29日、理論に基づく応用力の強化、先端電子技術を修得する第42回電子システム研究科（9名）と、機械と電子の接点を理解・習得する第39回メカトロニクス研究科（17名）の合同開講式が挙行された。

今日の激しい技術革新に対応する技術人材の育成が企業の持続的発展に向けて何よりも求められている。

幅が広く、力量のある、そして実践的対応力のある人材育成をはかることを目的に、京都府の支援と在洛の大学と産業界の協力により来年2月下旬まで行われる長期研修として定着し、京都のモノづくりを支える人材を数多く輩出している。

当日は、齋藤成雄京都高等技術・経営学院長（本会副会長）の式辞、そして京都府商工労働観光部 ものづくり振興課 参事 笠原 和史氏よりお祝いと激励の言葉がおくられ、長期研修のスタートを切った。

**新入会員ご紹介**

(5月20日、第334回理事会で承認されました。)

**正会員**

**中西印刷(株)**

社長 中西 秀彦

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入西大路町146  
TEL.075-441-3157 FAX.075-441-3159  
印刷、電子ジャーナル、学会事務代行

**叙勲・褒章の栄**

本年度の春の叙勲・褒章が発令され、本会関係では次の5氏がその栄に輝かれました。  
会員の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。



**瑞宝中綬章御受章**  
**山内 修一氏**  
(京都信用保証協会 理事長)



**旭日小綬章御受章**  
**増田 壽幸氏**  
(京都信用金庫 顧問)



**旭日双光章御受章**  
**小谷 眞由美氏**  
(株ユーシン精機 名誉会長)



**旭日単光章御受章**  
**川勝 健吾氏**  
(亀岡電子(株) 相談役)



**黄綬褒章御受章**  
**山本 正氏**  
(丹後機械工業協) 元理事長  
元・本会理事

**K.I.G**

**ゴルフ同好会  
(KIG) だより**

▶令和4年度第1回例会(第236回例会)結果

と き：令和4年4月6日(水)  
ところ：田辺カントリー倶楽部  
参加者：29名(内 シニア14名)  
優勝 石川 勝之氏(オリオン(株))  
準優勝 山本 覚氏(株乙訓環境エンジ)  
BG賞  
3位 牧野 稔氏(サンエー電機(株))

▶令和4年度第2回例会(第237回例会)結果

と き：令和4年6月18日(土)  
ところ：琵琶湖カントリー倶楽部  
参加者：23名(内 シニア11名)  
優勝 勝野 正己氏(株エスジーエー)  
BG賞  
準優勝 垣内 永次氏(株SCREENホールディングス)  
3位 田畑 久夫氏(オリオン(株))

▶令和4・5年度新役員を選任

第1回例会終了後クラブ内にて総会を開催、役員任期満了につき、以下の通り新役員を選任した。  
新会長：牧野 稔氏(サンエー電機(株) 社長)  
新幹事：瀬川 晋弘氏(旭光精工(株) 社長)  
〃：伊藤 博一氏(株伊藤製作所 社長)



人と人 事業と事業  
**想いをつなぐ**

寄り添う金融・つなげる金融による  
新たな価値の創造を通じて  
事業の成長と発展をサポートします。



**創業支援**



**ビジネス  
マッチング**



**事業承継**

## ～会員企業の人事労務の現状と動向～

### ◆はじめに

2年以上も続くコロナ禍の中で、在宅勤務やソーシャルディスタンス確保などで人と人とのつながりが希薄になり、企業でも様々な問題が生じています。

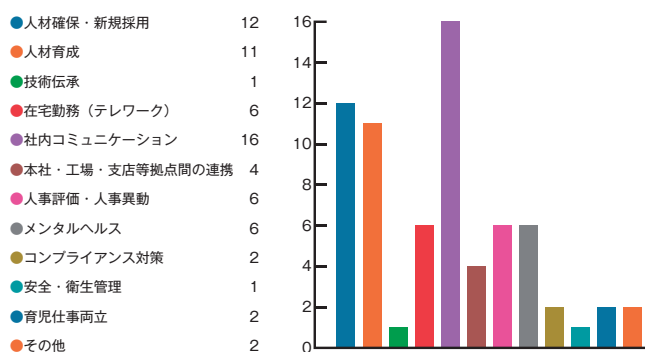
そこで、コロナ禍における人事労務の課題と取組に関する会員企業の現状や取組状況について、4回シリーズで取り上げます。

第1回は、本会の総務委員会並びに人事労務問題懇話会のメンバーにご協力いただき本年5月下旬に実施したコロナ禍を原因とする人事労務に係る調査の結果概要を報告します（有効回答23社）。

### ◆コロナ禍における働く環境変化と人事労務の課題

出社抑制をはじめ予期せぬ働き方の変化により、新たな対応の必要性が生じました。そこで本年5月下旬時点での人事労務の課題を伺いました（表1）。

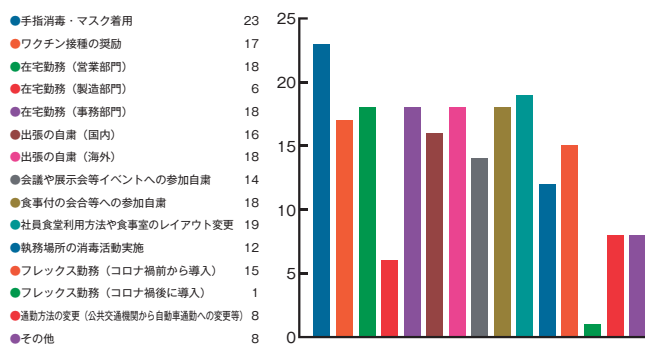
【表1】 コロナ禍により働く環境が急速に変化しつつある現在、常日頃感じている人事労務の課題（上位3つを選んで該当項目に☑してください）



現状認識として、対面でのコミュニケーションが、緊急事態宣言などの規制がなくなった現在でも、まだ困難であることが推察されました。

### ◆現在（令和4年5月下旬）の感染防止対策

【表2】 現在（令和4年5月下旬）行っているコロナ感染防止対策の取組（貴社が実施されている全ての項目に☑してください）



次に、人事労務面で対応しているコロナ感染防止対策の取組内容を伺いました（表2）。

全企業が実施している「手指の消毒・マスクの着用」のほか、大半の項目が7割前後の企業で取り組まれています。しかし、製造部門で「在宅勤務」に取り組んでいる企業は3割弱に止まるなど、製造部門における困難な面も浮き彫りになっています。

### ◆人事労務業務上、コロナ禍前との相違点

「採用活動のオンライン化等の変化」が最も多く（10社）、次いで「在宅勤務を含めた働き方の見直し」（8社）、「コロナ感染者・濃厚接触者対応」（5社）となっています。その他、「新人研修・人材育成」「社内会議・イベントの中止や開催規模縮小」「DX化、ペーパーレス化が進展」も複数社から挙げられました。

また具体的な意見として、「在宅勤務を実施する中で、職場内のコミュニケーションをコロナ禍前以上に意識する職場とそうでない職場との温度差が顕著になっている。例えば人事考課の『評価』に関して、「上司が行う評価とその結果の部下へのフィードバック」と「部下がされる自分への評価と上司のフィードバックへの納得感」において、コロナ禍前と比べて大きな開きが生じていることが社内調査等で判明した」との報告もありました。

### ◆各社で取組中の工夫や独自性の高い事例

#### 【感染防止対策】

- ・技術部門や工場のエッセンシャル業務従事者との社員の構内導線の分離
- ・昼休憩の3部制（食堂利用密度低減のため）
- ・人数が多い部署の一部社員の勤務場所を一時的に分散

#### 【人材採用・人材育成】

- ・新卒採用業務でメタバース空間での説明会を実施
- ・製造現場の人材の多能工化への取組を実施

#### 【社内コミュニケーション】

- ・人間関係を生み、コミュニケーション、アイデア創出といった部分が特徴的な当社の独自文化「コンパ」について、コロナ禍で実施が困難だが、オンラインやバーチャル空間でのコミュニケーション方法を模索中

#### 【働き方】

- ・在宅勤務の上限時間撤廃を試行的に運用
- ・在宅勤務においてフレックス制を「コアタイムなし」で運用

### ◆予告

第2回からは3回にわたり、実態調査で多く挙げられた課題を中心に掘り下げた記事を掲載します。

